充実した理系探究プログラムで
主体的に学ぶ姿勢と課題解決力を養う

順天中学校・順天高等学校

2014年にSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定された順天中学校・順天高等学校は、グローバル社会で活躍できるだけの実力を育むと同時に、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校にも匹敵する充実した理系探究教育を展開しています。そもそも「探究」には長い伝統を有する同校の教育の特色について、副校長の片倉敦先生に伺いました。

志望大学による類型制クラス編成 Sクラスでは SSH的な探究授業を

――初めに、御校の教育理念と特色をお聞かせください。

片倉　本校の始まりは数学者（和算）の福田理軒が1834（天保5）年に創設した「順天堂塾」です。教育理念は「英知をもって国際社会で活躍できる人間を育成する」。知識偏重ではなく、「創造的学力（主体性）」「国際対話力（多様性）」「人間関係力（協働性）」という三つの資質・能力を養う教育を大切にしています。

中学では、中1は全員が標準クラスで英語と数学のみ習熟度別授業、中2・3は習熟度別のクラス分けとなっていますが、高校では志望大学に基づく類型制のクラス編成としています。医学部など理系の最難関の国公私立大を目指す「理数選抜類型（Science class=Sクラス）」、難関国公私立大や海外大など文系・国際系の進学に対応する「英語選抜類型（English class =Eクラス）」、国公立・難関私立大を狙う「特進選抜類型（Tクラス）」の3類型がそれです。同校の生徒は学力と人間性の両方を重んじる教育方針の下で学び、卒業生の5割近くが国公立・難関私立大に進学しています。うち医薬系・医療系が1割ほどを占めています。

建学の精神は「順天求合」で、自然の摂理に従って真理を探究するという意味を持っています。つまり、本校は約190年前の「順天堂塾」の時代から、探究を大事にしていたということです。そんな本校では、2012年から理系教育のための設備を充実させており、SSHに倣った探究学習をスタート。2014年にはSGHに認定されました。以来、SSH的な学びを行うのがSクラス、SGH的な学びを行うのがEクラスという位置づけとなっています。

副校長 **片倉 敦** 先生

――Sクラスではどんな探究学習を行っているのでしょうか。

片倉　「理数探究」という授業を実施しています。これは火曜日の午後から夕方にかけて高1・2生が合同で行う授業で、生徒たちが自ら課題を見つけ、グループや個人でそれを解決するための実験を行ったり、議論したりするものです。もちろん、こうした探究学習は授業時間内だけで終わるわけではなく、生徒たちは放課後なども活用して取り組んでいます。そして、年に1回、解決策をまとめて発表するのですが、高2の3月には「つくばScience Edge サイエンスアイデアコンテスト」に全員が参加して発表します。ここで優秀な成績を収めたグループや個人は、シンガポールで開催される「Global Link」というアジアの中高生が集う国際コンテストに出場し、英語で発表を行います。

今年2月には香港Man Kwan Pak Kau Collegeの生徒たちが来校し、一緒に探究の発表会を行いました。こうした機会にも、本校生徒は英語を駆使しています。

中2生と高1・2生の全員が参加する探究プログラムも実施

――探究のテーマはどのように見つけるのでしょうか。

片倉　生徒たちが自由に探します。ただ、本校では連携しているさまざまな大学から先生を招いて講演会や討論会を行う機会も多く、そうした先生方の研究テーマから影響を受けるケースもあります。近年では「ミドリムシ」「プラナリア」「先輩たちの研究の継承」が研究テーマのベスト3ですが、ミドリムシとプラナリアは、大学の先生方の講演を聴いた生徒が取り組んだものです。また、プログラミングに取り組みソフトウエアを作るような、数学的なテーマを選ぶ生徒も増えてきました。

生徒が助成に応募して予算がついたテーマもあれば、自分のテーマを研究している大学の先生にメールを送り、その先生の研究室に出入りさせていただけるようになったケースもあります。

――御校ではSクラスの生徒に限定しない探究活動も行っているのでしょうか。

片倉　はい。2020年度からは中2生と高1・2生の全員が個人またはグループで参加するプログラムも実施しており、1年間の成果を発表する「探究報告会」を2月に開催しています。

2022年度からは「探究コンテスト」もスタートさせました。これは生徒自身が見つけた課題の解決策を探究し、大学教授や起業家などにプレゼンテーションして評価を得るというもので、生徒は課外活動として参加します。

生徒たちが集い、研究・発表を行うラーニングコモンズ（左）。その入り口付近の棚（右）には、香港、タイ、オーストラリアなどの高校から同校を訪れた生徒たちから贈られた記念の品がたくさん展示されています

全員が探究活動を行うようになった効果として感じるのは、生徒たちが受け身ではなく、主体的に学ぶようになったことです。これからは課題解決ができる創造性のある人材、円滑な人間関係を築ける社会性のある人材が求められるはずですが、そうした能力を成長させられるのが探究活動だと強く感じます。

大学の先生などを招いて行う講演会や討論会の機会も豊富

――先ほどお話が出た講演会や討論会にはどのようなものがありますか。

片倉　その代表的なものが、毎年11月に1週間かけて放課後に実施する「Global Week」です。大学の先生だけでなく、NPO法人やボランティア団体、何らかの活動に取り組んでいる卒業生や専門分野を持つ保護者などを招いて講座を開き、生徒は好きな講座に自由に参加して、そのテーマについて討論するというものです。ユニークなのは生徒も講座を開くことができる点。過去には広島で原爆に関する活動をしている生徒が講師を務めたこともあります。

2号館には理科室が三つあり、写真は主に高校生が使用するメインのサイエンスルームです。恒温器やドラフトチャンバー（局所排気装置）をはじめとする実験装置が充実。プロジェクターを使った授業もできるつくりになっています

――最後に、高校受験生にメッセージをお願いします。

片倉　本校は「探究力で未来を創る」を掲げて教育を推進しています。いろいろなものに興味を持ち、何か一つをとことん追求したい、世界・社会に貢献し、自分と周りの両方を幸せにしたい。本校ではそんなふうに考える生徒を歓迎します。

順天学園が育む国際貢献精神と実行力
OBの医師が自ら資金を集め ザンビアの無医村に診療所を建設

2022年2月28日、アフリカ南部のザンビアにある小さな無医村に診療所がオープンしました。その建設費用を集めたのは、順天高校の卒業生である宮地貴士さんです。その村の最寄りの診療所までは徒歩で約3時間。妊婦も歩いて通うという過酷な環境でした。

秋田大学医学部に在学中だった宮地さんは、研究のための調査で現地を訪れ、そんな状況を知りました。2017年、宮地さんは同じ順天高校から別の大学の医学部に進学した2人の後輩に声をかけ、その村に診療所を建設する「ザンビアブリッジ・プロジェクト」を立ち上げます。資金集めを目的にイベントでザンビア風お好み焼きを販売したり、クラウドファンディングを実施したりしました。その活動内容は多くのメディアで取り上げられ、たくさんの支援者を集めたのですが、住民たちに負担してもらう分のお金がなかなか集まらず、一度は頓挫しかかります。

そこで宮地さんは持ち前の行動力を発揮。2019年に大学を1年休学し、現地へ出向いて住民一人一人と信頼関係を築き、ついに目標金額を集めることに成功したのです。

2022年4月からは、JA秋田厚生連 平鹿総合病院で初期研修医として勤務している宮地さん。高校時代は高3の夏まで野球部の部活も続け、現役で医学部に合格しました。その陰には教室の移動時にも英単語を勉強したという努力があるとか。課題を見つけて解決する実行力や、協力者を増やす人間関係力は同校で育まれたものです。国際交流や語学教育が充実した同校で磨いた英語力も、グローバルな活動に役立っています。そんな宮地さんの生き方は高校の家庭科の教科書で紹介されています。

現在は研修医として経験を積んでいる宮地貴士さん。ザンビアの診療所に常駐している現地の看護師と、オンラインで情報交換もしています

学校プロフィール
順天中学校・順天高等学校
〒114-0022 東京都北区王子本町1-17-13
JR京浜東北線・東京メトロ南北線「王子」駅より徒歩3分
都電荒川線「王子駅前」駅より徒歩3分
TEL 03-3908-2966　URL www.junten.ed.jp